

種田直章

教育長インタビュー



教育長着任の経緯や今後について話す種田教育長
現場経験のある教育長は現在管内で4人しかいない

『我以外皆我師』をモットーに

5月2日付けで、新しく安平町教育長となった種田直章氏。
種田教育長が抱く教育への思いや教育長として意識していきたいことなどを伺いました。

再び安平町に

平成22年4月から平成26年3月まで町立追分小学校で校長を務めていました。その後、苫小牧市の小・中学校で校長を務めていたのですが、追分小学校の校長時代にお世話に

なった及川町長から「教育長として安平町の教育をお願いしたい」との熱いお話を受けました。

追分小学校で校長を務めているときは、保護者の皆さまはもちろん、地域の方々の温かい支えをいただき、とても楽しい時間を過ごさせていだいたんです。そんな楽しい時間を過ごした安平町で、教育長というお声がけをいただき「これまで恩を受けていた。これからは恩を返していかなくては」と思い、教育長を受けさせていただきました。

近い距離感で関係を築いていきたい

私の経歴の中で、初めて勤めた小学校が校長として着任した追分小学校でした。さらに初めての校長という職に就いたのも、この時の追分小学校だったのです。安平町には何か縁を感じていました。

追分小学校に着任するまでは、週の半数以上が日付を越

すような勤務。そのため、学校の様子を見る、生徒と関わりを持つということに時間を割けずにいました。

校長になって少し時間ができたとき、登校して来る児童を通学路で待つて挨拶をしてみたいです。ただ挨拶するのではなく、なるべく多くの児童と深いコミュニケーションを取るように心掛けました。当時の学校には186人の児童がいたのですが、2か月程で全児童の顔と名前を覚えたりもしました。私が名前を覚えると、子どもたちも私とのコミュニケーションを積極的にとってくれるようになって・・・。

そのような折、マラソン大会前、校庭で児童が練習をしていたので、グラウンドに出て様子を見ていたんです。普段からコミュニケーションを交わしていたからでしょう。とある児童が「校長先生も一緒に走ろう!」と声を掛けてくれました。当時ヘビースモーカーだった私は、児童の誘いを受け走ってみると、2km足らずで疲れてしまっ

であることに気付かされたんです。それ以降、走ることに興味となり、気が付けば喫煙もやめていたんです。

児童と近い距離感で関わっていたからこそ、児童から学ぶこともできたんだろうなと。そんな経験からも、この近い距離感での関係作りが間違っていないかったと感じ取れました。何より、児童が声をかけてくれたこと、児童から学べた・気付かされたということは、とても嬉しかったのを覚えています。

教育長として

この度、ご縁をいただき、再び安平町でお世話になることとなりました。子どもたちには、楽しくのびのびと過ごせる学校作りを、大人の方々には社会教育としての学びの機会を充実させていければと思っています。

今後、さまざまな世代の人たちと関わっていくことになりました。そもそも教育長という大任に値する器でないことは自覚しておりますので、「我以外皆我師」を肝に銘じ、コ

ミュニケーションを大切にしながら、少しでも安平町のお役に立てるように努力したいと考えております。

プロフィール

種田直章氏

昭和35年4月25日生まれ
2018年5月2日より安平町教育長に着任

休日には、趣味のランニングを楽しみながら安平町を巡り冬は安平山スキー場でのスキーを楽しみたいとのこと。なお、5月13日に行われたノーザンホースパークマラソン2018ではハーフマラソンに出場した。

